

北村秀行の “チャーマス・ブレイン”



連載 第121回

“Char Mas. Brain” ヒメダイの仲間

今回は、前号で紹介したハマダイ属と生態が似ているヒメダイ属のうち、ヒメダイと、オオヒメ、キマダラヒメダイ、キンメヒメダイ、シマチビキを紹介。いずれも美味しい魚たちだ！

解説●北村秀行



ヒメダイ
フエダイ科では小さい種だが、寿命は長い
学名: *Pristipomoides sieboldii*
英名: Lavender jobfish
太平洋側、九州西岸、琉球列島、朝鮮半島南岸、台湾、東沙諸島～インド、太平洋域、ハワイ諸島に分布

「マチ」と呼ばれる魚について！
南西諸島海域に生息し「マチ」と呼ばれ、漁業で重要なのはアオダイ、ヒメダイ、オオヒメ、ハマダイの4魚種。これらは資源減少にともない、2005年から30cm以下の捕獲制限、禁漁区や保護区を設けて、資源回復計画が始まっている。現在の漁獲は、最盛期の1983年の漁獲高2159tの10%以下の20t前後の漁獲で移行している。

「マチ」とは沖縄県での地方名。フエダイ科17種、ムツ科

2種、ハチビキ科3種の総称で、漁業では「瀬物」と呼ばれている。

よく似るヒメダイとオオヒメについて！

ハマダイ属と生態が似ているヒメダイ属魚類は、背鰭がほぼ長方形に近く、両目の間が隆起する点で、他の魚属と区別できる。ヒメダイ属 (*Pristipomoides*) は全11種中8種が日本海域に生息する。

◆ヒメダイ (船鰯)
学名: *Pristipomoides sieboldii*
英名: Lavender jobfish
太平洋側、九州西岸、琉球列島、朝鮮半島南岸、台湾、東沙諸島～インド、太平洋域、ハワイ諸島に分布

暖海の100～360mの海山、大陸棚斜面の岩礁域に生息する。幼魚は浅海にも出現し、フエダイ科の中ではかなり温帯域の北方にも生息する。体形は細長い紡錘形。体色は紫褐色、両顎に犬歯がなく、舌の上に絨毛状歯帯があり、同属他種と区別できる。側線有孔鱗数は70～75枚と多い。背鰭の中央部の欠刻が多い。

年齢	尾又長 (cm)	体重 (g)
1	16.8	85
2	23.2	228
3	28.0	411
4	31.8	605
5	34.6	790
6	36.8	955
7	38.5	1,097
8	39.8	1,215
9	40.8	1,311
10	41.6	1,388
15	43.4	1,588
20	43.9	1,644
25	44.1	1,659

●ヒメダイの成長
ヒメダイの成長は遅い。寿命は40年



●オオヒメ
キンメヒメダイと体型がそっくりだが、目の色や尾鰭の後縁色が違う

や硬くて引きやすい。肉は透明感のある白身で美味だ。刺身、塩焼き、洋風料理などに使える。

関東の市場ではオオヒメと区別しないでオゴダイの地方名で市場に出されている。古くから上物白身魚と周知され、主に高級料理店、寿司店で消費され、あまり出回らない魚だ。

◆オオヒメ (大姫)

学名: *Pristipomoides filamentosus*
英名: Crimson jobfish

伊豆諸島、小笠原諸島、和歌山県以南の太平洋側、九州西岸、琉球列島、南大東島、南シナ海、インド洋～西太平洋、ハワイ諸島に分布する。おもに水深100～400mの岩礁域に生息。体形は紡錘形でやや側扁す



●キマダラヒメダイ
体側に黄色斑点が散在する。尾鰭上葉が黄色の個体が多い

頭の背面に黒色小斑がある。目の虹彩が薄い黄色か淡色。尾鰭後縁が赤みを帯びている。ヒメダイと比べると鱗が大きく粗い。側線有孔鱗数は60～65枚で、ヒメダイの70～75枚より少ない。肉食性で小魚、頭足類、ヒカリボヤ等を捕食する。沖縄での産卵期は4～8月。最大100cm、8.2kg。寿命44年。

◆キマダラヒメダイ (黄斑姫鰯)

学名: *Pristipomoides auricilla*



●キンメヒメダイ
尾鰭後縁が黄色

英名: Goldlag jobfish
南日本、琉球列島、小笠原諸島、西太平洋～東インド洋の水深90～360mの岩礁域に生息する。体形は紡錘形でやや側扁する。背鰭、尾鰭上葉が黄色く、全体に褐色で黄色い色合いが斑模様になっている。しかし斑模様がない個体もある。有孔側線鱗数は70～75枚。ヒメダイに似ているが、尾鰭は上葉、または上下葉が黄色で、舌の上に絨毛状歯帯がないことで区別できる。肉食性で小魚、甲殻類、軟体動物などをおもに捕食する。最大45cm。

関東の市場では珍しい魚。

ヒメダイ、オオヒメと同様にオゴダイとして流通している。

●キンメヒメダイとシマチビキについて！

◆キンメヒメダイ (金目姫鰯)

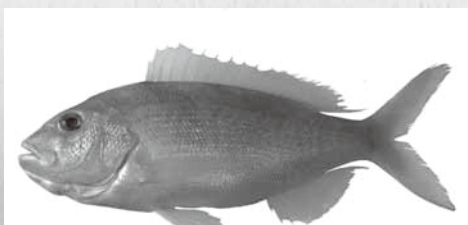
学名: *Pristipomoides havipinisi*
英名: Golden eye jobfish
小笠原諸島、琉球列島～台湾、西太平洋～中央太平洋、アンダマン海に分布。ハワイ諸島には生息しない。

水深90～360mの岩礁域に生息する。頭部上面に黄色い虫食い斑がある。口中、舌上に絨毛状歯帯はない。側線有孔鱗数は59～65枚で、オオヒメの60～65枚に近似している。虹彩は黄金色、尾鰭後縁は黄色っぽい。最大50cm。

◆シマチビキ (縞血引)

学名: *Pristipomoides zonatus*
英名: Oblique-banded snapper
小笠原諸島、南日本、土佐湾、琉球列島、南大東島～インド、中央太平洋、ハワイ諸島に分布。水深70～300mに生

息する。体色は赤みを帯び、体側には4～5本のやや斜めで太目の黄色横帯がある。背鰭は黄色で、尾鰭は黄色っぽい赤色。側線有孔鱗数は63～67枚。肉食性で小魚や甲殻類、小動物を捕食する。最大50cm。築地市場には、小笠原諸島の漁場からの入荷が多い。



●シマチビキ
体側に黄色の斜黄帯が4～5本ある

●Profile
北村秀行 きたむらひでゆき
1946年9月8日生まれ。
“チャーマス”の愛称で親しまれ、この人なくして今の日本のソルトウォーターアーフィッシングの発展はないと言っても過言ではない。魚やタックル、そして自然など、釣りに関係するありとあらゆる物事に対する豊富な知識から導き出される卓越したフィッシング理論には定評がある。クラブビッグワズ代表。tailwalk スーパーバイザー